



プロバスだより

第325号

2022 年 12 月 8 日発行

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2022～2023 年度 テーマ

プロバスライフを元気に楽しむ すこしずつ動きだそう

第 325 回例会

日 時 令和 4 年 11 月 10 日 (木) 12:00～14:00

場 所 八王子エルシィ

出席者 31 名 出席率 64.5 %

(会員総数 51 名、欠席 17 名、休会 3 名)

1. 開会

浅川委員

第 325 回例会開催を告げ、配付資料の確認が行なわれた。

2. 会長挨拶

池田会長

全日本プロバス協議会全国大会が迫りました。

実行委員会の皆さんが綿密な準備をしていますので、充実した会になると思います。

私たちホストクラブ会員は、お客様を元気な笑顔でお迎え

できるよう体調管理に努めましょう。今月はいちょう祭りもあります。お手伝いに参加される会員はご苦勞様ですが、どうぞよろしくお願いします。3 年ぶりの宇宙の学校での経験を少しお話しします。

例年は大学生、高校生に指導役をお願いしていましたが、今回は八王子学園の中学生の皆さんにも指導していただきました。午前中にレクチャーを受け、午後は本番です。

小学生とその保護者を相手に、しっかり手順を伝え無事完成に導いています。

反省会でも建設的な意見を聞かせてくださいました。孫の年齢と思うと幼く見えたのですが、どうしてどうして私たち以上に立派な指導ぶりでした。これから先が楽しみです。

ご協力ありがとうございました。



3. ハッピーコイン披露

持田副会長からハッピーコイン 18 件の披露がありました。(5～6 ページに掲載)

4. 卒寿の祝い

矢島一雄会員が 90 歳の卒寿を迎えられましたので、プロバスクラブよりお祝金を贈呈しました。

5. バースデーカード贈呈

11 月生れの深谷正徳会員、杉山友一会員。東山榮会員、矢島一雄会員に会長手作りのバースデーカードが贈られました。



写真左から深谷会員、杉山会員、会長、東山会員、矢島会員

6. 11 月のラッキーチャンス

今月のラッキーチャンスの当選者は土井会員、塚本会員、土屋会員でした。

7. 卓 話

八王子を知ろう……第 2 弾

10 月の「八王子の観光事業」に引き続き、今月は「高尾登山電鉄物語」についてお話を頂いた。船江社長のお話とパワーポイントのレジュメを中心にその概要を報告する。(情報委員会)

「高尾山と人をむすぶ 高尾登山電鉄物語」

講師 高尾登山電鉄株式会社

代表取締役社長 船江 栄次様

1. 私のプロフィールと会社の経営

昭和 36 年 4 月、葛飾区生まれの 61 歳。八王子の東京純心大学の行事の際、先代の大野社長に勧められ、平成 19 年に入社、15 年が過ぎて現在に至っている。会社の経営～コロナ前の年商は 15 億円。当期純益は 2 億円。



一貫して無借金経営を続けている。

2. 高尾登山電鉄の今後の取り組み

昨年 9 月に会社設立 100 周年を迎えた。5 年後の令和 9 年 1 月にケーブルカー開業 100 周年を迎える。この時にはしっかりとお披露目をやりたい。

3. 高尾山の位置づけ

・高尾山は先人達が残してくれた財産。高尾登山電鉄株式会社の 100 年は、先人達が地域観光開発に邁進してきた歴史である。

- ・企業理念は「高尾山と人をむすぶ」
- ・経営理念は「論語と算盤」
- ・社長としてのモットー「過去に感謝を」「現在には信頼を」「未来に希望を」。
- ・安全基本方針

① 安全の確保は輸送の生命である。

② 規程の遵守は安全の基礎である。

③ 執務の厳正は安全の要件である。

を掲げて安全運行に努めている。

4. 今後の施策として

・より一層の安全性向上のため、各施設の改修等を順次計画・実施

(ケーブルカー高尾山駅(山上)周辺の地盤強化のため、本年 10 月に杭打ち工事に着工)

- ・観光施策の展開
- ・環境保全

世界の着目する観光地にお客様をお迎えするにふさわしい施策を展開する。観光保全という立場で自然を守りながら会社を前進させてゆきたい。

そして未来に高尾山を残せるように様々な取り組みを行っていく。

5. 高尾登山電鉄 100 年の歴史

① 大本山高尾山薬王院武藤貫首の「薬王院の信徒(当時 30 万人)のために」「浅川村の経済発展のために」との発案により、大正 10 年 9 月 29 日に高尾山ケーブルカー運行を目的とした高尾索道株式会社が設立された。

② 昭和 2 年 1 月に高尾～清滝間が営業運転を開始。昭和 19 年 2 月戦争(企業整備令)により営業を休止。施設の資材は供出された。

③ 戦後の復活～昭和 24 年 10 月 16 日、ケーブルカーとしては戦後最も早く運行を再開した。(昭和 43 年まで、2 代目ケーブルカーが運行された。)ケーブルカーの変遷は、昭和 43 年 9 月から平成 20 年 12 月までの 40 年間にわたり 3 代目が運行。平成 21 年からは 4 代目が導入され、窓枠が大きくなり、よりワイドな景観が楽しめるようになった。さらに全自動制御方式に更新され、安全性の高い運行が可能となった。

清滝駅～高尾山駅 (1,020m)、高低差 271m、2 車両(あおば号・もみじ号)を運行、最大乗車人員 135 名。

④ 観光リフトの導入と変遷

昭和 39 年 8 月にケーブルカーと並行して観光リフトの建設に着手。昭和 39 年 10 月の東京オリンピック開会式当日に一人乗りリフトとして営業開始。昭和 46 年 9 月に二人乗りのリフトに更新され、輸送力は大幅に増強された。山麓～山頂駅間全長 872m、最急勾配 29.6 分、所要時間 12 分、眼下に素晴らしい景観とスリルを満喫できる高尾山の大きな魅力となっている。

⑤ ミシュランの三つ星に～来山者の急増

昭和 2 年のケーブルカー開業当初の輸送人員は年間 30 万人に過ぎなかった。その後戦後の経済発展を経て、輸送人員は増加してきた。

昭和 42 年 10 月 京王高尾線の開通

昭和 42 年 12 月 明治の森高尾国定公園に指定

平成 19 年 4 月の「ミシュランの三ツ星」の認定

平成 27 年 4 月 京王高尾山口駅リニューアル

令和 2 年 6 月 東京都で初めて「日本遺産」に認定

⑥ 年間の高尾山来訪者数は 300 万人

高尾山ケーブル・リフト利用者 年間 200 万人

その他高尾山来訪者は年間 100 万人

8. 各委員会からの報告

(1) 情報委員会

河合委員長

・プロバス日より第 324 号をお届けしました。編集担当は有泉委員でした。杉山会員、池田会員からの原稿を頂き、6 ページ建てになりました。これからもプロバスだよりの誌面を飾りたいと思いますから、ジャンルを問いません。是非原稿をお寄せください。

・10 月のホームページへのアクセス件数は 478 件でした。9 月より 150 件ほど増えていますが、これは八王子市で全日協の全国大会が開催されるのが一つの要因と思われます。今後とも効果的な情報発信に努めたいと思います。

(2) 会員・研修委員会 杉山委員長

本日の卓話は 11 月 24 日の八王子総会を前にして地元学習の一環として、高尾登山電鉄物語を船江栄次社長様にお願いしました。お楽しみ頂けたと思います。

次回 12 月例会の卓話は「明治日本のパイオニアたち」と題して、列強の外圧を排して、日本国の近代化を成し遂げた勇者たちの歴史物語です。どうぞご期待ください。

研修委員会 PJ の「老年研究会」、12 月 22 日のプログラムを会員ボックスにお入れしておきました。関係会員各位にご予定いただければ幸いです。

(3) 地域奉仕委員会 馬場委員長

・2022 年 3 月の音楽祭関連

1) 教育委員会へ現状を報告 (10 月 24 日)

杉山様の案内で教育委員会 (鴨狩統括主事、福島指導主事) へ報告

① 出場 9 校を I 部合唱、II 部吹奏楽に分けたプログラム案を説明。

② 次年度 (2024 年春) の見通しや課題を議論。

2) 出場校の訪問を 10 月中に完了。(ただし吹奏楽 4 校は電話連絡)。

・生涯学習サロン関連

「生涯学習サロン」の無期限中止処理を 10 月中に完了した。これで、サロン関連の後処理はすべて完了。即ち、26 期に出席応募を頂いた外部サロン会員 46 名及び 24 期～26 期に出講をお願いした 7 名の外部講師へ葉書連絡、友好 2 クラブ (多摩 PC、日野 PC) の会長へメールにて連絡を行った。

さらに、上記 46 名以外の外部サロン会員への連絡は、11 月～来年 3 月まで HP 上で告知すべく情報委員会へ掲載文を提出した。

(4) 交流担当

一瀬会員

「東京八王子 2022」について、現在全国の参加予定各クラブから確定した人名の回答と会費の納入をお願いしているところです。ほぼ最終段階ですが参加クラブは 22 クラブ 100 数名。これに八王子分を加えて 170 名弱というところです。事前準備も最終段階に入ってまいりました。

残り 2 週間、事前の準備や当日の役割分担についても個々にお問い合わせしておりますがよろしくご協力下さい。そして当日は全国からのプロビアンを全員であたたかくお迎えしましょう。

9. プロバス賛歌

10. 閉会挨拶

持田副会長

・本日は 31 名の出席とのことでした。会員数 51 名ですが、休会の会員も 3 名いますが、17 名の欠席はコロナの影響もあるかもしれませんが、出席率が低下しておりますので、気になります。

・本日の卓話は、高尾登山電鉄 (株) の社長船江栄次様の「高尾山と人をむすぶ 高尾登山電鉄物語」でした。日本一の登山客を迎える高尾山をさらに良くしようとしている取り組みを理解する良い機会でした。

・いよいよ 11 月 24 日に「東京八王子 2022」が開催されます。全国からのプロビアンを私たち全員で心から温かくお迎えしたいと思います。

11. 宇宙の学校

塚本サブリダー

令和 4 年度閉校式を迎えて

宇宙の学校はコロナ感染で 2 年間開催できず 3 年目の今年度に規模等を縮小して開催することができた。しかし、参加希望者の 10% 程の規模 (八王子学園は 22 名・教育センター会場は 18 名) しか参加できず、多くの参加希望者の期待に応えられなかった。

二つの会場ともそれぞれに 3 回の教室が開かれ、11 月 6 日 (日) に八王子学園会場、11 月 20 日 (日) に教育センター会場で閉校式が行われ、今年度の事業が終了した。教育センター会場では、終了証が一人一人に手渡され、笑顔と達成感がいっぱいの子供たちの顔が印象的だった。

本年度は 8 月に小学校 6 年生を対象とした「大気圧



一人一人に終了証が手渡された

の実験教室」がこども科学館で初めて開催され、プロバスクラブからも急遽の応援体制が取られた。

宇宙の学校の開催は参加する小学生には「宇宙への入り口」として魅力のある教室となっているが、ボランティアとしてこの事業をサポートする学生や生徒にとっても、貴重な実習体験の場ともなっている。教える立場になって初めて知る「伝えることの難しさと楽しさ」を肌で体験し、年齢に応じてそれぞれに学ぶ機会の多い「宇宙の学校」になった。スタッフ不足で急遽お願いしたプロバスメンバーも、多数応援に参加していただき、ありがとうございました。

最後にこの事業にスタッフとして参加した大学生の感想文を掲載して事業報告とする。

『宇宙の学校に3回もボランティアスタッフとして携わらせていただき、本当にありがとうございました。参加したほとんどの学生は教職課程を履修していますので、学校の勉強だけでは学べない「伝える力や子どもの才能を引き出す力、何よりも親子で楽しみながら学べるように工夫する対応力や想像力」等、たくさんのことを学ばせていただき、各々がそれぞれの課題を見つけることができたと思います。

このような貴重な機会を設けてくださり、誠にありがとうございました。この宇宙の学校で得たことを今後の教職課程で活かしていけるよう、一人一人が、さらにチームとして頑張ります。』

12. いちよう祭り

無事終了・ご協力に感謝

いちよう祭り祭典委員会 副会長 岡本宝蔵

第43回いちよう祭りは11月19日(土)～20日(日)の両日、盛況の中で無事に終了しました。プロバスク

ラブの皆様には2日間に亘り会場案内業務に多大なご協力を頂きました。

今年のいちよう祭りは3年ぶりに「クラシックカーパレード」が復活し、晴天に恵まれた19日には13万人、20日には午後に雨が降りましたが8万人の来場者がありました。

さらに、会員の皆様には「通行手形」を購入していただき、この売上金は会場内のごみ収集や仮設トイレの設置に活用させていただきました。ここに改めてご協力、ご支援に感謝し、事業報告とします。

13. ゴルフ同好会活動

第15回多摩3地区プロバスクラブ合同ゴルフコンペを10月14日(金)に開催いたしました。

参加者15名で、日野プロバス4名、多摩プロバス3名、八王子8名でした。

朝は、やや小雨模様でしたが、後半は薄日が差して絶好のコンディションとなりました。前回は2019年の11月でしたので、コロナ禍で3年ぶりの開催で、懐かしい顔合わせとなりました。

優勝は日野の黒沢さん、準優勝は五位堂さんでした。

次回から、ゴルフ会の幹事は東京多摩プロバスクラブになります。



14. 「東京八王子2022」を終えて

東京八王子2022 実行委員長 一瀬 明

全日本プロバス協議会第10回総会・東京八王子大会(「東京八王子2022」)が11月24日、25日の両日にわたり東京八王子プロバスクラブがホストとなり、コホストとして東京多摩プロバスクラブ・東京日野プロバスクラブ・埼玉浮き城プロバスクラブのサポートを受け、東京八王子において「交流と学び合いの実」を上げつつ無事終えることができました。

コロナ禍の中参加クラブ、参加者が日々変動する極めて厳しい環境下での開催でしたが、事務局・実行委

員・サポートスタッフの献身的な奮闘を得、個々の会員の皆様にも会費の全員徴収、お酒類の提供、大会への積極的な参加などいろんな局面でご支援をいただき心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

何よりも天が2日間最高の天気を恵んでくれました。大会の評価はお帰りになった全国のプロビアンにしていだけるものかもしれませんが、我々としてはきちっと総括をして反省すべき点を今後の活動に生かしていきたいと思います。

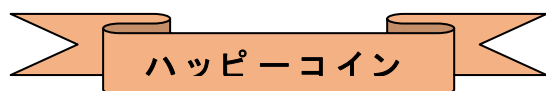
◎第10回総会・新旧役員の交代



◎東京八王子大会・歓迎イベント



◎東京八王子大会・懇親会



◆サッカー天皇杯では、ヴァンフォーレ甲府が優賞しました。大きな感動頂きました。その夜は仲間と久々に

美酒を飲み、いい気分です。午前様近くになりました。

飯田 富美子

◆同好会の一泊囲碁大会、3年ぶりに出来てハッピー

橋本 鋼二

◆オリックス 26年ぶりの日本一、阪急ブレーブス時代からのファンとして喜びひとしお。

橋本 鋼二

◆今月も例会がもてて、良かった。皆さんと顔を合わせられて幸せ。

土井 俊玄

◆八王子学園会場での宇宙の学校は11月6日(日)に無事開校式を迎えることが出来ました。今年は3年ぶりの開校でしたので諸条件の中でのスタートであり、回数、参加者も減にて実施しましたが、参加者の児童、保護者ともども喜びと共に科学の面白さ、すごさ、ふしぎさを感じ取って、また、ボランティアとして参加した八王子学園の中学生は、教える難しさ、喜び、初めて合う人との会話の大切さを学び、充実した時間であったと「宇宙の学校」に参加したことを満足していました。その蔭には巡回して各班を回っていただいたプロバス会員の方々の温かい声かけがあったことをお伝えしたいと思います。

塚本 吉紀

◆いよいよ全国大会！力を合わせて成功させましょう。

有泉 裕子

◆11月24日、いよいよ全日本プロバス協議会の総会、大会、懇親会。翌日の高尾山エクスカッションが開催されます。会員一丸となっておもてなしましょう。

飯田 富美子

◆満月が天体ショーになって一家団欒。杉田 信夫

◆いちよう祭り祭典委員会の岡本です。第43回いちよう祭りが11月19・20日の2日間開催されます。プロバスの皆様お手伝いのご協力有り難うございます。お時間がありましたら是非ご来場をお待ち申し上げます。また、いちよう祭り記念の手形1枚500円で販売しておりますので、記念にお買い求めをお願い致します。

岡本 宝蔵

◆11月24日八王子で開催される全日本総会の盛会を祈って。

田中 信昭

◆コロナ恐れる世の中にホットなニュース、女子高生が平均台で金メダル。おめでとう。内山 雅之

◆「東京八王子2022」は、いよいよ2週間後ですね。ホストクラブとして皆さんを温かく迎え「八王子PC」ここにありを示しましょう。

馬場 征彦

◆昭和10年生れの会員6名、11月の締めくくりです。
6名で来年の米寿を目指します。 杉山 友一

◆本日の例会、卓話講師に高尾登山電鉄株式会社代表取締役社長船江栄次様をお迎えしました。どうぞご期待ください。 杉山 友一

◆来週全国旅行支援キャンペーンで越後へ3日程旅に行ってきます。 野口 浩平

◆会員の皆様には会費、酒類の提供などご協力有り難うございました。当日は全国からのプロビアンを温かくお迎えいただきたく重ねてお願い申し上げます。
一瀬 明

◆いよいよあと2週間で「東京八王子2022」の開催です。コロナと天気が気になりますが、「人事を尽くして天命を待つ」の心境です。 一瀬 明

◆いよいよ八王子大会まであと2週間。参加者はほぼ予定通りの180名弱。コロナ感染の急増があり、懸念はありますが、十分対策をとり、全国からの仲間の皆さんを温かく迎えHappyにしよう！ 持田 律三

キクあれこれ

旧暦の九月九日は重陽節会と言います。新暦で言うと十月四日頃でしょうか。季節的には菊の花が咲き始める時期です。これを賞美するだけでなく長命の効能があるとされた菊酒を嗜む会を兼ねたことから、菊花宴とも呼ばれています。

この風習は平安時代からのものと言われています。



理由は、私たちが目にする菊は「イエギク」ですが、中国が1500年前に野生キクの交配を繰り返して完成させた植物であり、奈良時代以降、日本に輸入されたからでしょう。

植物図鑑で調べても「キク」という名前の植物はありませんし、よく使われる「野菊」と言う名の植物もありません。キクの前に何らかの文字が入っています。例えば、ハマギク、ノジギク、などです。

伊藤左千夫の「野菊の墓」で民子が欲しかった野菊は「カントウヨメナ」ではないか？とも。



能の世界にも、長命の効能があるとされる菊酒について、慈童という菊水の霊験で長寿を保った仙人を主人公とした「枕慈童」という演目があります。(雅)

私の一句〈十一月の句会から〉

河合 和郎

折角日常の句会に戻れたのにまたまたコロナの動きがおかしい。感染者数が激増、第8波が懸念される。秋から冬へ、季節は正に俳句の世界に。気を配りつつ楽しみたい。

大樺切られし後の星月夜 矢島 一雄

宅地開発で樺の大木が切り倒された。今まで見られなかった星空が大きく広がった。

天地みな秋をまとひて静まれり 池田ときえ

静謐な秋の一日を詠んで秀逸。中七の季節感の表現がまたいい。感性は歳をとらない。

高千穂や峰の穂先に寒昂 田中 信昭

息を飲むような雄大な景色が詠めた。天孫降臨伝説の霊峰に従う如くに寒昂が輝いている。佳句。

綿虫や小さな風に舞ひ遊ぶ 下山 邦夫

小さな小さな綿虫に心を寄せる作者。俳句目線は吹けば飛ぶような虫の動きにも共鳴する。

酉の市露天賑はすおかめ面 飯田富美子

酉の市の季節が巡ってきた。露天商が並ぶ賑わいを「おかめの面」に語らせる手法が面白い。

口実は「かはいいい太め」と食の秋 馬場 征彦

食欲の秋ともなれば何を食べても美味。その言い訳に「可愛い太目」と居直るところが俳諧の味。

相老いの歩みそろへて花野徑 野口 浩平

老夫婦の静かな散策のひと時。中七の措辞に日頃の仲の睦まじい様子が偲ばれ微笑ましい。

もう一回推敲果てぬ夜長かな 東山 榮

俳句作りは推敲が命。繰り返して作り直しても満足できない。かくして秋の夜長は過ぎてゆく。

縄文人も遊び心や木の実独楽 河合 和郎

「実」の兼題句。子供の遊びとしては木の実独楽をうまく作り回すのは難しい。縄文人もきっと。

編集後記

今月号は「卓話」の詳報と「宇宙の学校」「東京八王子2022」の終了報告など、6ページになりました。

情報委員会 内山

